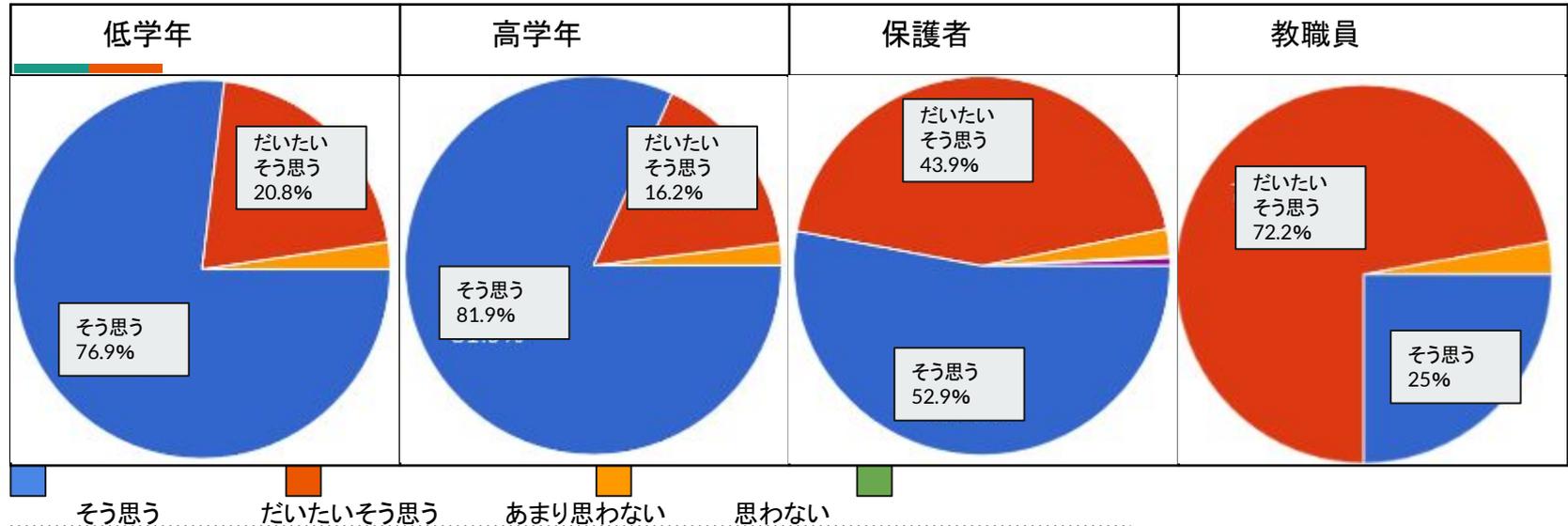




学校評価アンケート 結果報告

川崎市立大谷戸小学校

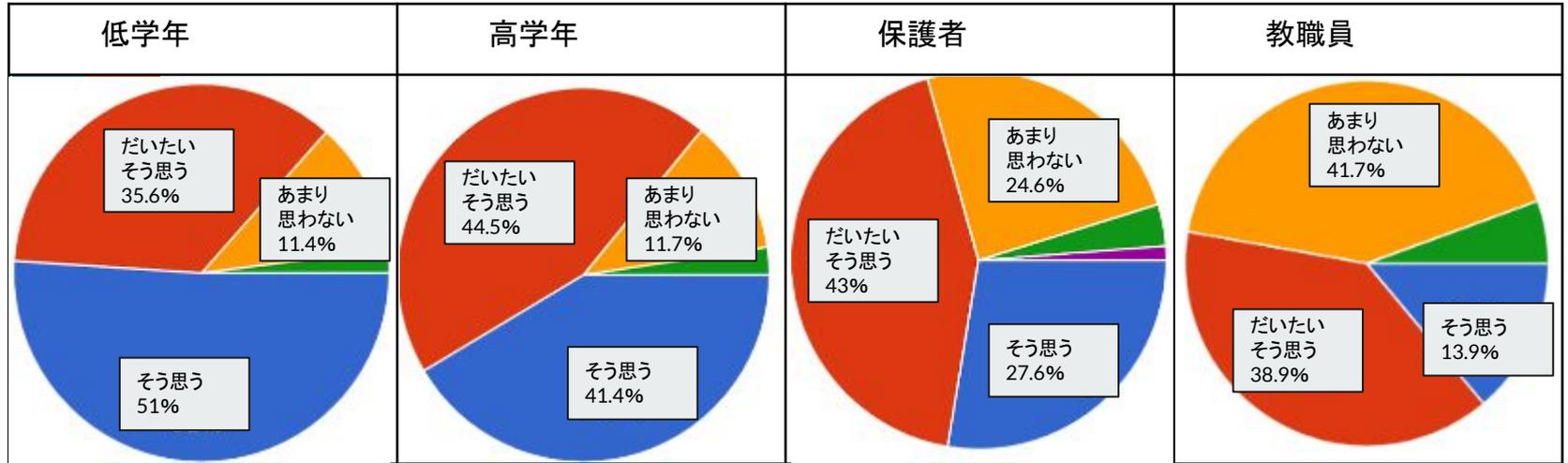
設問1 友だちとなかよくしていますか



- ・児童、保護者、教職員共に昨年同様、90 %を超えて肯定的な回答をしている。道徳教育や共生共育、人権尊重教育を通して子ども同士が関わり認め合う機会を得たことの成果だと考えられる。
- ・「あまり思わない」「思わない」と回答した児童がいることに対しては、今後も他者意識が芽生えていくような取組みを学級経営や児童交流の中で大切に行っていく。



設問2 自分からあいさつをしていますか？

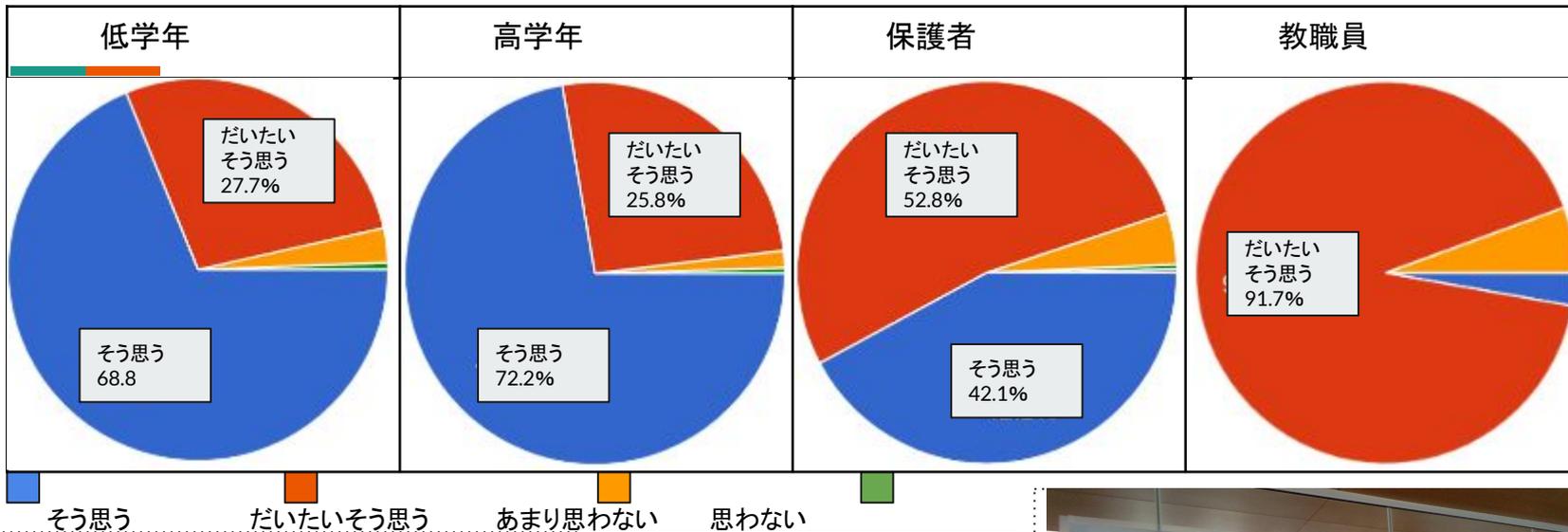


■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない

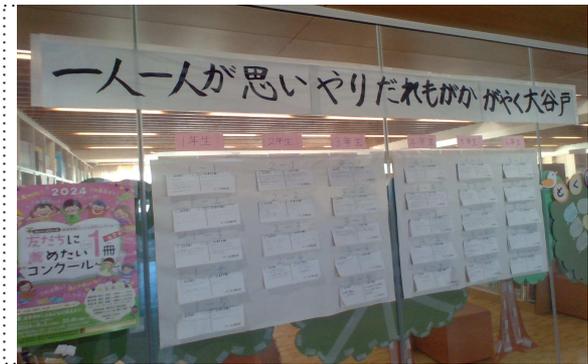
- ・児童は80%を超えて「できている」と回答している。ふれあい委員会や地域の方による挨拶運動が継続して行われた結果と考える。
- ・保護者は70%肯定的に捉えているが、昨年度に比べると4ポイント下がった結果となっている。今後も、挨拶の意味や挨拶の仕方、場に応じた言葉遣いを具体的に示しながら挨拶の大切さを養っていく。



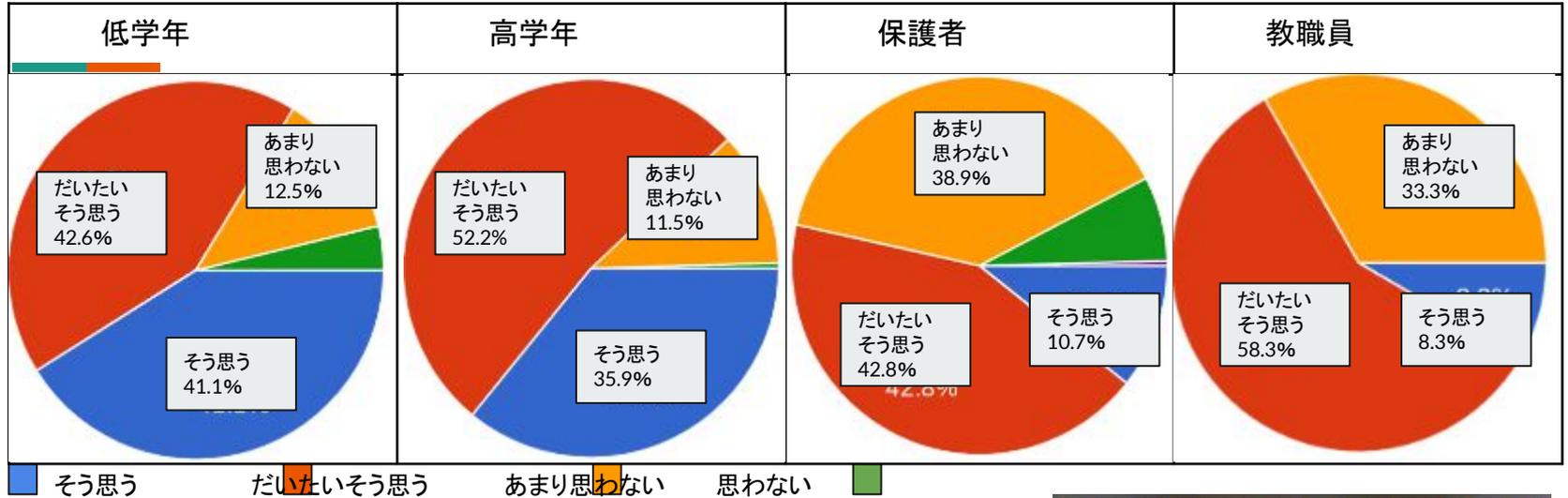
設問3 自分やまわりの人を大切にしていますか？



- ・昨年と同様、3者共に90%を超える肯定的な回答をしている。
- ・約6%の児童においては、自分の思いを表出できなかつたり、他者との関わりに難しさを感じたりしていると考えられる。



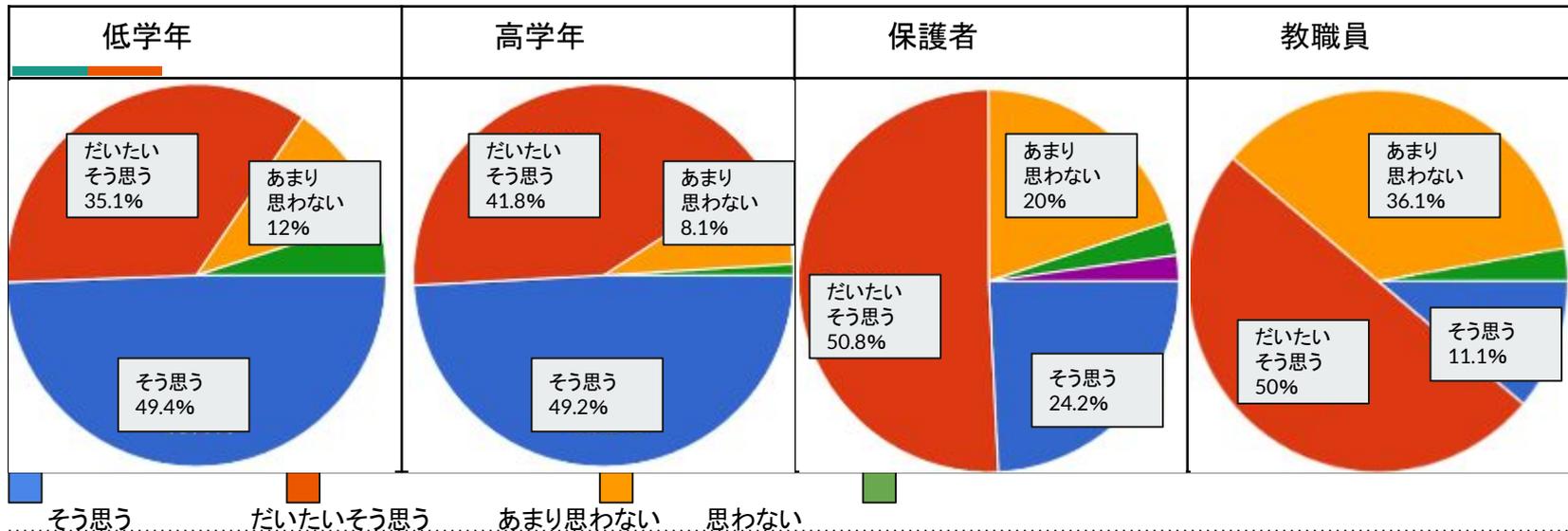
設問4 自分から見通しをもってものごとに取り組んでいますか？



- ・80%の児童は「できている」と肯定的に回答している。
- ・12%の児童は、計画的に物事に取り組んだり、挑戦したりすることがあまりできていないと感じている。
- ・「なぜ取り組むのか」「どこまでを目指すのか」などの方向性を示しながら、成功体験を重ねる場を増やしていく。

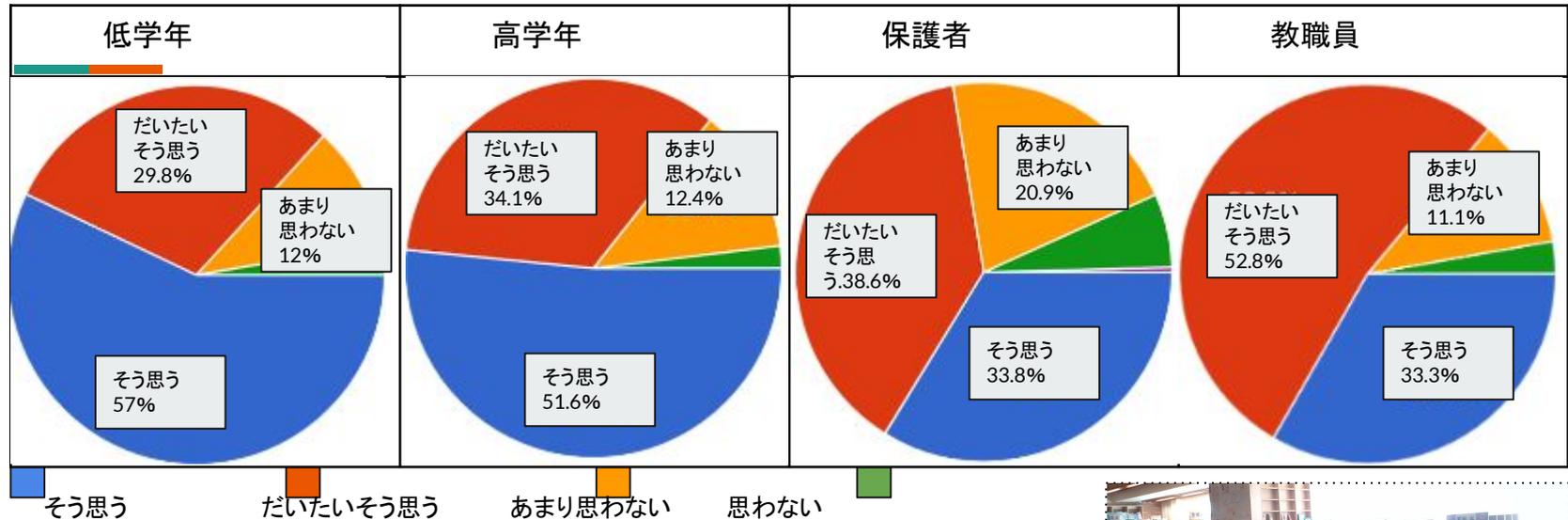


設問5 学習したことを生活に生かそうとしていますか？



- ・高学年児童の90%が「そう思う」「だいたいそう思う」と回答している。昨年度と比較すると6ポイント上がっている。
- ・「あまり思わない」「思わない」と回答している25%の児童については、生活に活かす前に学習に対して苦手意識や、内容が理解できていないことも原因の一つとして考えられるため、基礎基本の定着を図るとともに、学ぶことの楽しさを味わわせていきたい。

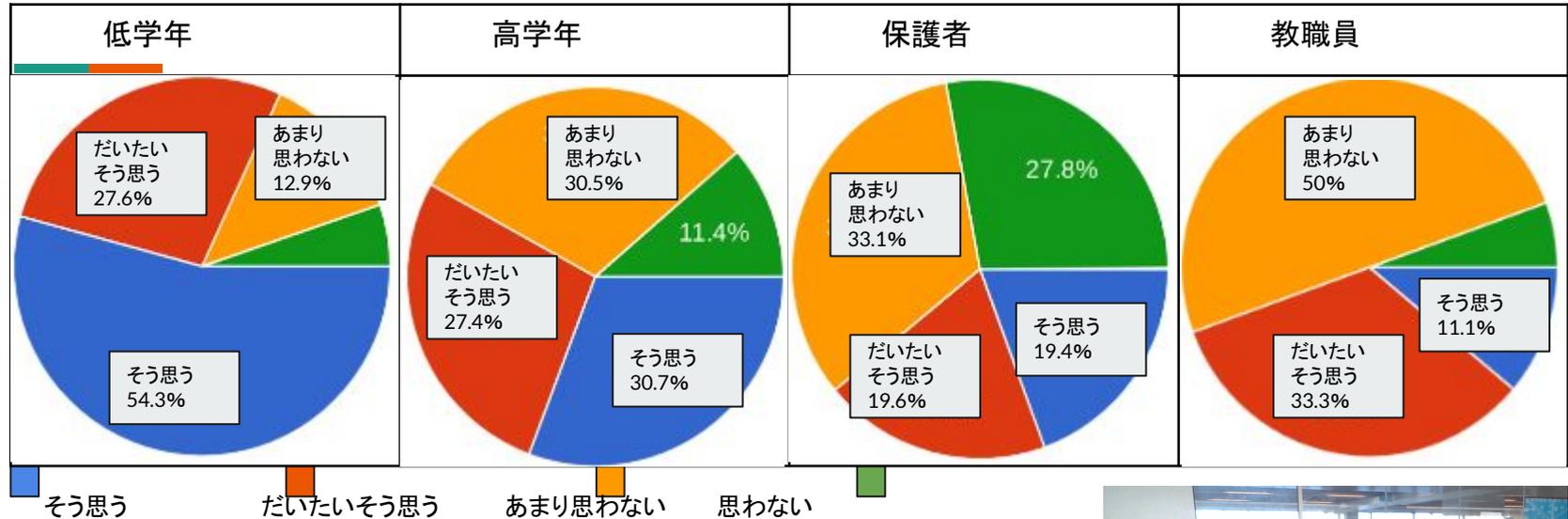
設問6 自分が気になることを本やインターネットなどを使って調べていますか？



- ・児童、教職員は80%を超え肯定的な回答をしている。GIGA端末を活用した授業実践は、学年が上がるにつれ日常的に行われており効果をあげていると考えられる。
- ・一方で28%の保護者が「そう思わない」と回答している。情報モラルの理解と順守に努めながら、GIGA端末を活用した効果的な授業の在り方、家庭学習の在り方について検討と実践を行っていく。



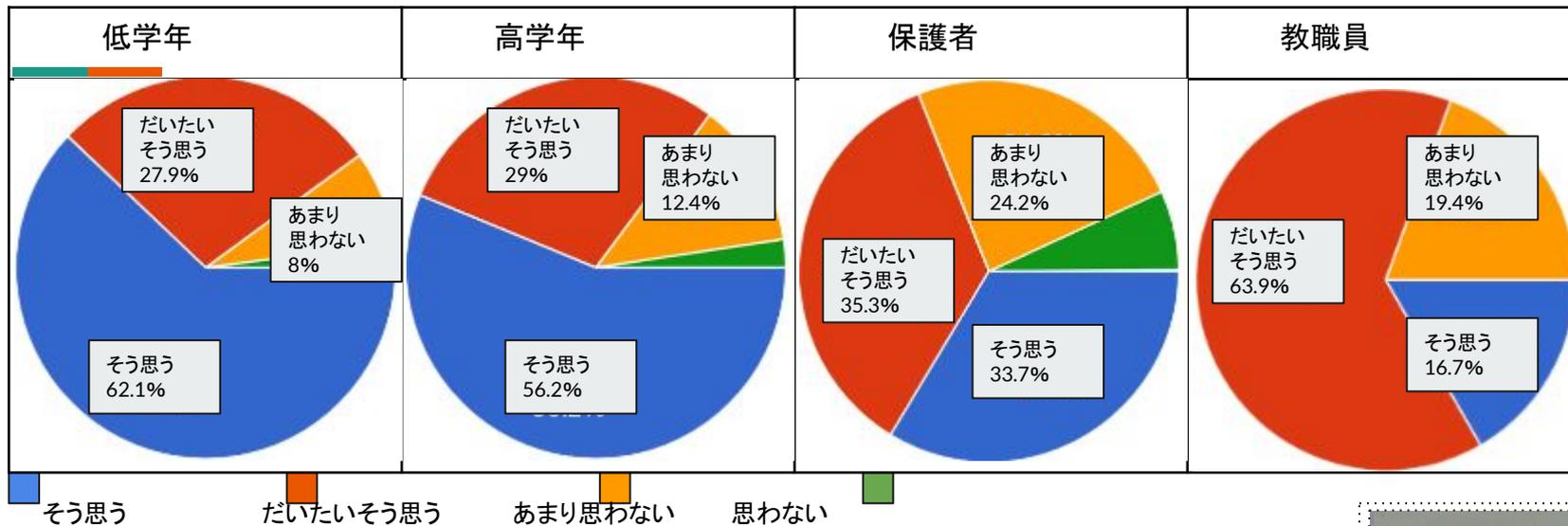
設問7 進んで読書をしていますか？



・3者共に50%未満の数値を表している。図書ボランティアによる定期的な読み聞かせや、おはなし会の開催 読書タイムの取組みを継続し、読書につなげていきたい。



設問8 進んで体を動かして健康的な生活をしていますか？



・「そう思う」「だいたいそう思う」を合わせると 80%の児童が肯定的な回答 をしている。多くの子ども達が休み時間や放課後に校庭で遊ぶ姿が見受けられる。

・一方で「あまり思わない」「思わない」と回答している児童がいることを受け、毎月の「生活のめあて」の取組や、家庭科、体育(保健)、学級活動を中心とする様々な学習の中で「健康な体」について意識付けていく。

1月の生活目標

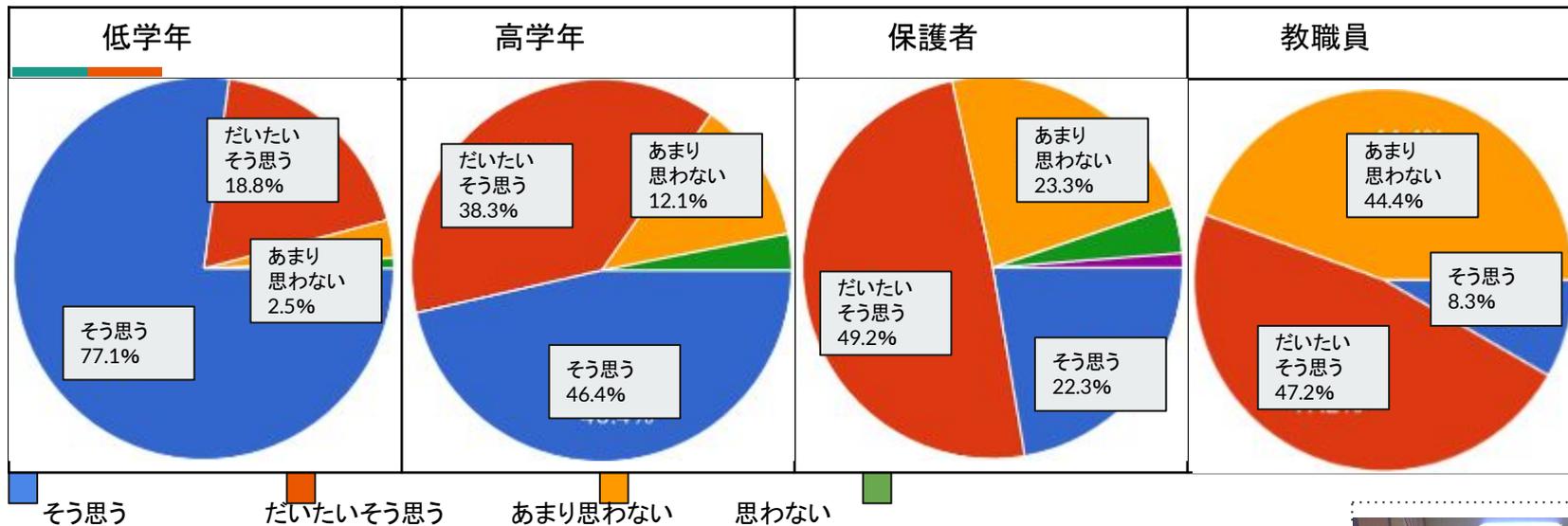
生活目標

家々に負けず
元気にすくすく

・今年1年の健康目標を立てよう

・給食について考えよう

設問9 日ごろから、防犯・防災意識をもち、安全に気を配って生活していますか？

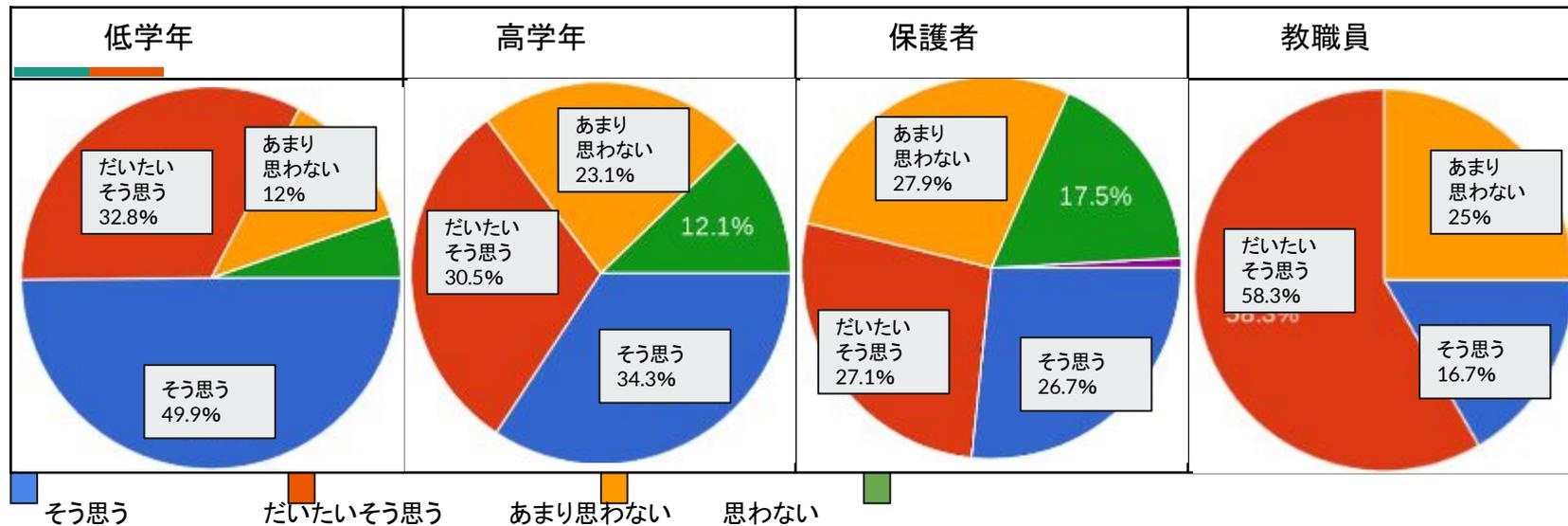


- ・PTAや地域の方の協力があることで安全に登校できている。年間に計画されている避難訓練では、落ち着いて適切に行動できるように継続して指導にあたっていく。
- ・校舎内の歩行の仕方については、ポスター等で呼び掛け、意識を高めている。

写真
(避難訓練の風景)
全校
山本Tがもっていそう



設問10 地域での行事やスポーツ活動などに進んで参加していますか？



- ・ 昨年の結果と比べると、今年度は三者ともにポイントがわずかにあがっている。
- ・ 学校行事等を含め、地域の方々との関わりを続け、地域の中で育つ子ども達を支えるために、地域に目を向け、皆に支えられているという意識がもてるようになっていく。